

五月鹿ノ台川柳教室誌上句会 優秀句

お題「散歩」 播本英二

大空の青に元氣の散歩道

ちさと

垣根越し暮しの知恵を見る散歩

義雄

興味散歩他にすることないのです

充

巢ごもりの散歩四度目犬立たぬ

アキラ

スタートベビーカーゴール車椅子

乃り子

静けさをコロナがもどす古都の町

登美

散歩時に鼻をくすぐる夕餉の香

よう子

早朝の散歩朝日を独り占め

乃り子

裏道の散歩で知ったあれやこれ

広子

散歩道明日を信じる茜雲

よう子

覚えてる繋いだ父のぶ厚い手

哲子

秀 午前二時心の中を散歩する

ちさと

軸 徘徊でないと胸張る犬の顔

英二

お題「戦」*字結び可 森里えいじ選

必ずや勝つと信じた負け戦

登美

自家園の草と戦う夏ヤサイ

よう子

収束の後が不気味なコロナ戦

広子

外コロナ内フアミリーと戦う日

哲子

負け戦闘う前に泣き叫ぶ

宏樹

敗者復活負けて分かったこの歓喜

乃り子

コロナ終息へ自分との戦い

アキラ

私の辞書にもう有りません戦など

義雄

兄弟げんか意地でも負けぬ次男坊

春代

自我通し四代生きて逝った母

哲子

やつつけて砂をかんでる口ゲンカ

広子

秀 戦中派もつたいたいなが口癖に

よう子

軸 七並べ年の差忘れ命がけ

えいじ

お題「ざらり」 原 広子選

いつか読む本を並べて歳重ね

よう子

ずらずらと目的なしの列にいる

正清

どぶろく酌めばふるさと捨てた悔いざらり

義雄

無意識に長蛇の列に居るわたし

哲子

チューリップざらり自肅の春謳歌

アキラ

値踏みするすいかは音でツラじやない

哲子

行列に我慢できずについ並び

充

行列があつて並べば最後尾

正清

請求書コロナの付けが子らの代 乃り子

どう見ても神に重荷の絵馬ざらり 義雄

謝罪会見なんで俺がの顔並ぶ 英二

秀 クラスタールなんぞカタカナ強くなり 千楽

軸 好物をざらりと並べ百箇日 広子

自由吟 坪田登美選

三密はわが家にはない空気感 哲子

元号を三つまたいでまだ生きる 乃り子

こんなにもおしゃべり恋し午後のお茶 広子

スマイルは誰かをきつと救うはず 千楽

こどもの日母の日哀し五月晴れ 英二

行き場ない庭のテントではしゃぐ子等 春代

初夏の風無策のほほをなでてゆく よう子

自肅でも動画往き交うエール便 哲子

災いがあぶり出してるお国柄 広子

金婚へ結び直した赤い糸 アキラ

おもてなし出来ないまゝに負債だけ 乃り子

秀 コロナ禍に気づく自由の有り難さ アキラ

軸 死の町にコロナが変えた繁華街 登美

自由吟 笹倉良一選

死の町にコロナが変えた繁華街 登美

新人生は不安うれしさ半分こ 春代

自肅でも動画往き交うエール便 哲子

スマイルは誰かをきつと救うはず 千楽

喫茶店客一人で落ちつかぬ えいじ

コロナ禍に気づく自由の有り難さ アキラ

初夏の風無策のほほをなでてゆく よう子

やさしさの裏にひそんだ胸算用 登美

明けぬ夜なし人は言うホントかな 千楽

こんなにもおしゃべり恋し午後のお茶 広子

三密はわが家にはない空気感 哲子

秀 とれそうなボタン必死に生きている よう子

軸 拍手聞く背中が寒いと思う 良一